

新「深谷市」の概要

平成18年1月1日、深谷市、岡部町、川本町および花園町がひとつになり誕生した新「深谷市」は、埼玉県北西部に位置し、東京都心から70km圏にあり、東は熊谷市、江南町に、南は嵐山町、寄居町に、西は美里町、本庄市に、北は群馬県の太田市、伊勢崎市に接しています。

また、市内北部は利根川水系の低地で、南部は秩父山地から流れ出た荒川が扇状地を形成する平坦な地形となっています。

交通の面では、関越自動車道、国道17号線、同深谷バイパス、上武国道、国道140号線、同バイパス、国道254号線などがあり、広域間の基幹的役割を果たす道路として機能しています。

また、地域の玄関口として関越自動車道花園インターチェンジが設置されているほか、嵐山小川、本庄児玉のインターチェンジに近接しています。

また、鉄道はJR高崎線、秩

父鉄道の2路線において駅を有するとともに、上越新幹線およびJR八高線が通過し、上越新幹線本庄早稲田駅にも近接していることから、東京都心方面、上信越方面、秩父方面への交通の利便性が高い地域です。

気候は、夏から秋にかけて降水が多く、冬になると北よりの季節風が強く、乾燥するという太平洋側の気候の特色とともに、内陸性気候の性格も併せもっています。このため、夏と冬の平均気温の差が大きく、さらに日中は暑く、夜間は涼しいという1日のなかでの温度差が大きいこの地域では、雷が多く、雷雨が夏の降水量を多くする一因となっています。

また、ねぎやブロッコリー、トウモロコシに代表される全国ブランドの生鮮野菜や、白鳥の飛来地の荒川や利根川などの恵まれた自然環境、誠之堂・清風亭をはじめとするさまざまな文化遺産などを有しています。

新「深谷市」の将来都市像

「笑顔にあふれ活力を創出する しあわせ市民都市」とは、市民1人ひとりが物心両面において「幸せ」を全身で実感できる笑顔あふれ活力に満ちた都市を創出していくという考え方です。

また、「市民都市」には、分権時代の主役である市民が中心となった「市民がつくる市民のための市政運営」を推進するため、行政と市民が深い信頼関係のもとに力を合わせる協働のまちづくりを推進していくという意味も込められています。

●**「まちづくりの基本理念」**
「だれもが恵まれた自然と育まれた文化を共有できるまちづくり」

地域資源を市民共有の財産として、大切に保存しつつ、手間ひまをかけて再生・活用する「スロータウン」の考え方をまちづくりに取り組み、都市としての新たな魅力と個性を創出し、これらを新たな財産として

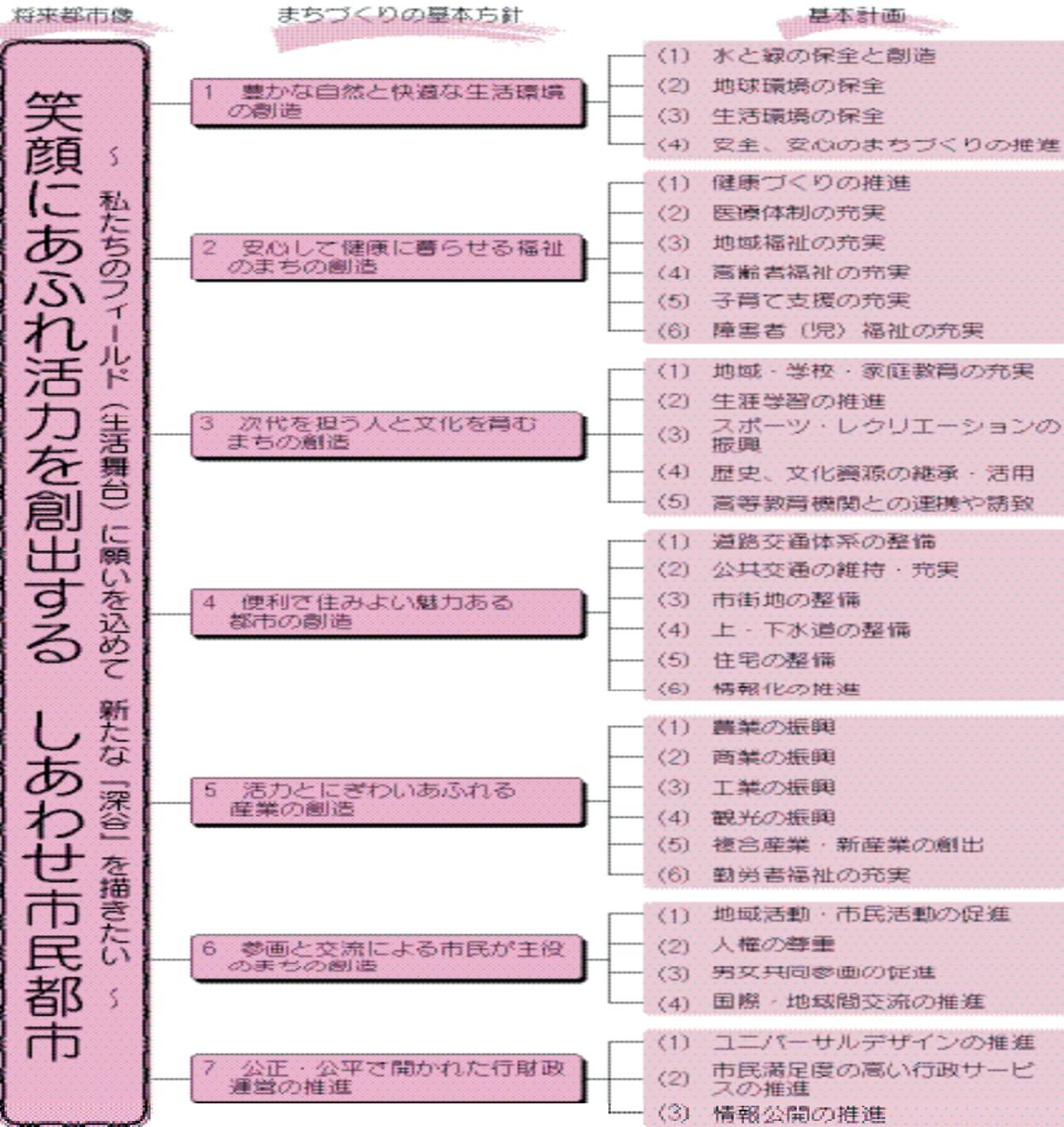
次代に発展的に継承するまちづくりを進めます。

●**「豊かな心と新市の活力を創出するまちづくり」**

地域の特性を最大限に生かし、快適な生活環境と都市機能の充実をはじめ、産業の活性化、学習・文化・交流などのさまざまな活動を有機的に結びつけ、総合的な地域活力の向上を図ります。こうした取り組みにより、市民生活におけるおいや安らぎを実感できる豊かな心を育むとともに、新市の活力を創出し、未来へ向け限りなく発展する自立性の高いまちづくりを進めます。

●**「協働による思いやりとふれあいのあるまちづくり」**

だれもが住んでよかったと心から実感できるまち、だれもが愛着や誇りをもち続けることのできるまちを築くため、「ユニバーサルデザイン」の考え方をもとに、住民と行政の協働による思いやりとふれあいのあるまちづくりを進めます。



※スロータウン

「スロータウン」の考え方とは、「スピード社会」と「スロー社会」のどちらも「善」であり、2つの社会がお互いを認め合い、尊重し合い、共存していく社会の実現を目指すというものです。また、「スロー社会」とは、単に「ゆっくり」ということではなく、手間ひまをかけて物事を深く追求し、保存・再生に重点をおいた社会であり、「スロータウン」とは、「スロー社会」に重点をおいたまちづくりの考え方です。

※ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインとは、「だれもが1人の人間として尊重され、自分の意志に基づき、生活する権利を有していること」を基本として、高齢者も若い人も、障害のある人も、ない人も、男性も女性も、外国の人もすべての人が、暮らしやすいように人づくり、まちづくり、ものづくりなどを行っていくという考え方を指します。